

令和6年度 南国市立大湊小学校 学校評価書

校長 吉本 欣彦 印

学校教育目標		人間性豊かに たくましく生きる 大湊の子の育成		研究主題	主体的に学びに向かう児童の育成	
		～いきいき・やさしく・たくましく～			～個々の伸長と協働的な学びをめざして～	
大項目	中項目	評価指標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価
学力向上	(1)規範意識の育成	①全ての学級で「考え・議論する道徳」が行われ、児童「規範意識」肯定的評価88%以上。 ②保護者「規範意識」肯定的評価90%以上。	①「ルール」や「きまり」に関する肯定的評価(児童)は、一学期91.8%、二学期78.8%と評価指数を達成できなかった。特に「机やロッカーの整頓」「人の話をしっかり聞く」ことに課題が見られた。 ②保護者アンケートの肯定的評価は86.7%と、2家庭が否定的回答であった。行事等の準備・係の仕事等により、落ち着いた雰囲気の中で学校生活が送れなかったことが要因と考える。	C	◇道徳科を中心に道徳的価値の認識を高め、日常の行動化につながるよう、特別活動の充実を図っていく。 ◇社会生活に活きる規範意識を育成するために、地域学習や校外学習の場を通して、育成を図っていく。	○「ルール」や「きまり」に関する評価は1学期90%を超えており、評価できるが、その後少し下がってきており、児童がお互いに「規範意識」の育成に向け、各学年の発達段階に合わせ、課題確認することが大切である。また、改善された内容については、児童同士が評価し合い、意欲をもって取り組むことを継続してほしい。
	(2)授業改善	①「学習意欲」(Q-U) 肯定的評価90%以上。 ②各学力調査、全国比+1.0P以上。全学調：D層の割合全国平均以下。 ③「ICT 機器活用(協働)」肯定的評価全国平均以上。	ICTを活用した授業改善、コグトレ、MIM、放課後加力等により、基礎学力の定着を図った。 ①「学習意欲」(Q-U) 肯定的評価は一学期90.2%、二学期82.4%。3名の児童が否定的回答である。②「全学調」全国比(国+18.0P・算+24.1P)・D層の割合0%。県学調・標準学調ともに全国比を下回った。③「ICT 機器活用(協働)」肯定的評価100%。	C	◇授業において児童にとって必然性のある課題提示を行い、学習意欲を高め、個に応じたきめ細やかな授業改善を図っていく。 ◇複式授業スタンダードをもとに、個別最適な学びや級友との協働的な学びを通して、充実感・達成感のある授業研究を行う。	○「学習意欲」についての評価数値は1学期90%であり、評価できる。2学期が少し低くなっている。全国・県・標準学習状況調査において、県平均を下回っていることについて、個々の児童の課題を把握しながら、授業改善を図り、学習評価を児童とともに進めていく必要がある。
	(3)家庭学習	①「家で自分で計画を立てて勉強している」(児童)県平均以上。 ②家庭学習の提出率90%以上。 ③デジタル教材を効果的に活用し、「家庭学習」(保護者)項目 肯定的評価85%以上。	①「家で自分で計画を立てて勉強している」(児童)県学調結果にて分析を行う。 ②家庭学習の提出率は80%程度。厳しい環境にある児童の提出率が低く、学習の定着率も低い。 ③ICTを効果的に活用し、「家庭学習」(保護者)項目 肯定的評価86.7%。個別的に配慮が必要な児童があり、個に応じた手立てが必要である。	B	◇デジタルツールの活用により、予習・授業・復習のサイクルを確立し、日常的な学びの定着化を図る。 ◇生活習慣調べ期間を中心に保護者と連携し、児童の家庭学習への支援・承認を行い、家庭学習の質的向上を図る。	○家庭学習の提出率は80%であり、目標値を下回っている。家庭学習を充実していくためには、児童自身の家庭学習の方法・内容を学年の教科等の進みぐあいに即して指導していくことと、友だちの良かった点等を児童全体で共有することが大切だと考える。 ○保護者の回答は87%であり、目標値を上回っている。今後も保護者への家庭学習の理解を深めていくために、PTAの事業の中で、課題解決のための方策など周知を図っていくことが大切である。
	(4)英語教育の推進	①英語意識調査肯定的評価90%以上。 ②技能別英検ESG CSEスコア(6年生)平均80P以上。 ③英語の「聞くこと」「読むこと」小学校卒業時の目標達成100%。	中学校区で連携した英語研究を推進し、ALT・英語支援員と協働した授業改善を図った。 ①英語意識調査肯定的評価86.4%。評価指数を達成できていない。 ②技能別英検ESG CSEスコア(6年生)平均93.1%。 ③英語の「聞くこと」「読むこと」小学校卒業時の目標達成100%。	B	◇児童の特性に応じたカリキュラム・授業内容に改善させながら、授業改善を図る。 ◇発達段階に応じたカリキュラムに改善し、英語活動を充実させていくことで、抵抗感を和らげる。 ◇将来、英語を使う仕事を避ける考えを持つ児童が多く、将来のキャリア教育と関連させながら英語の重要性を認識させる。	○英語意識調査は86%であり、目標値には達していないが、技能別英検ESG CSEスコアは93%と高く、評価できる。今後も、中学校ブロックで香南中、日章小と連携しながら、英語教育の充実のための研究を続けて、成果を上げていってほしい。
生徒指導	(1)道德教育の推進	全ての学級で「考え・議論する道徳」が行われ、「大湊シート」の次の項目で肯定的評価92%以上。 ①自分からあいさつをしている。 ②掃除をまじめにしている。 ③「教室」や「ろうか」などにゴミが落ちていたら拾うようにしている。	道徳性項目全体の肯定的評価は、一学期92.9%、二学期84.7%と、道徳的価値は理解しているものの、行動化の弱さがみられる。 ①「自分からあいさつをしている」一学期94.1%、二学期82.4%。 ②「掃除をまじめにしている」一学期94.1%、二学期88.2%。 ③「ゴミを拾う」一学期94.1%、二学期70.6%。	C	◇道德の授業を要として、一人一人の道徳的価値を高める。 ◇道徳的価値を学校生活や日常生活で行動化させるため、各学級の特別活動をPDCA化し、児童一人一人が自分事として、生活の質的向上を進められるようにする。 ◇教職員が発達支持的生徒指導の視点を持ち、児童への関わりを行う。	○1学期の評価は「あいさつ・掃除・ゴミを拾う」項目でいずれも目標値を上回り、道德教育の推進がみられているが、2学期になり少し目標値を下回っている。児童の道徳的価値が発揮された行動を教職員・児童が評価し、児童同士確認し合う取り組みを充実してほしい。また、地域の中で道徳的価値のある行動があれば、積極的に共有し、共感してもらいたい。
	(2)いじめ・不登校・問題行動等への対応	①いじめ防止推進委員会を、毎月第1水曜日に開催。 ②「いじめは、どんな理由があってもいけない」(全学調)全国平均以上。 ③「学校に行くのは楽しい」(全学調)全国平均以上。	①毎月定例・臨時のいじめ防止対策委員会を開催し、兆しが見られた段階で管理職・関係教員等複数体制で早期に初期対応を継続してきた。 ②「いじめは、どんな理由があってもいけない」(全学調)100%。 ③「学校に行くのは楽しい」(全学調)100%。	A	◇学校いじめ防止基本方針のもと、「いじめは決して許される行為ではない」との意識を徹底させる。 ◇いじめを起こさせない学級風土をつくるため、仲間づくりを軸にした学級経営を行う。 ◇いじめを未然に防止するため、児童の些細な変化を見逃さず、児童との対話や全児童のSC面談を行う。 ◇定例のいじめ防止推進委員会を軸に、未然防止の取組を進めて行く。	○「いじめは、どんな理由があってもいけない」「学校は楽しい」の項目ではいずれも100%と高く、評価できる。今後も月1回のいじめ防止対策委員会を充実させ、児童のよりよい仲間づくりができるよう取り組んでもらいたい。
	(3)自尊感情の育成	①「自分にはよいところがある」(全学調)全国平均以上。 ②「人が困っているときは、進んで助けている」(全学調)全国平均以上。 ③「やりはじめたら最後まで頑張ることができる」(大湊シート)90%以上。	全校自尊感情項目全体では、一学期84.7%、二学期83.5%と、自己肯定感の低い児童が複数名いる。 ①「自分にはよいところがある」(全学調)100%。 ②「人が困っているときは、進んで助けている」(全学調)100%。 ③「やりはじめたら最後まで頑張ることができる」(大湊シート)94.1%。	B	◇認知機能を高めるコグトレを継続し、コミュニケーション能力を高める。 ◇発達支持的生徒指導の観点を活かした学級経営を行い、自己有用感を高める。 ◇特別活動を有効的にPDCAサイクルさせ、キャリア教育を充実させる。	○「自分にはよいところがある」「人が困っているときは進んで助けている」の項目は100%であり、自尊感情が育ってきている。学級経営の中で、個々の児童の良さを確認し合い、自分はみんなの役に立っていると感じられる自己有用感をさらに育成していくことが大切である。
	(4)人間関係づくり推進	①Q-U「満足」70%以上、「不満足」15%未満、「要支援」0人。 ②学校生活アンケート以下の項目で肯定的評価90%以上。 a.学校が楽しい。 b.みんなで何かをするのは楽しい。 c.勉強が分かる。 d.学校の先生は話を聞してくれる。	①Q-U一学期学級満足群58.8%、不満足群11.8%、要支援群0%。二学期学級満足群52.9%、不満足群5.9%、要支援群5.9%。 ②学校生活アンケート a「学校が楽しい」70.6%、b「みんなで何かをするのは楽しい」100%、c「勉強が分かる」82.4%、d「学校の先生は話を聞ってくれる」94.1%。	C	◇集会なかまづくり委員会による「Good Jobの木」等、児童主体の定例活動を充実させる。 ◇上級生企画による全校遊び「Happy Wednesday」を月一回実施し、仲間づくり活動を充実させる。 ◇各学級「いいところ見つけ」等、構成的エンカウンターを効果的に取組む。	○学校生活アンケートでは「学校が楽しい」82%、「みんなで何かをするのは楽しい」100%、「勉強が分かる」82%、「先生は話を聞してくれる」88%と目標値には至っていない項目もあるが、全員で協力しながら活動することは高く評価できる。児童が一つになって学習活動を進めようとしていることがとてもよく理解できる。今後も児童の良い点を評価しながら、学校生活全般で仲間づくりが高められるよう取り組みを進めてもらいたい。
家庭・地域の連携	(1)保幼小連携の推進	①架け橋カリキュラムを基に、継続的な保幼小連携が図られている。 ②子どもの育ちを中心に据えた連携を通して、相互理解や実践を深め、子どもが主体的に学びに向かっている。	①香南中学校区にて、保幼小接続プログラム開発会議を行い、児童の情報交換や接続プログラム開発へ向けての協議を継続してきた。 ②校区に園所がなく、中学校区の保育所に、本年度入学児童・次年度入学予定児童が在籍していない。	B	◇中学校区にて、目指す児童像を共有し、保幼小接続プログラムの改善を図る。 ◇支援引継ぎシート等を通して、配慮が必要な児童の確実な引継ぎを行うと共に、児童の実態に応じた保幼小接続期のカリキュラムの充実を図る。 ◇中学校区の保幼小中教職員研修を継続し、情報共有を図る。	○校区に保育所がなくなり、保育・小学校の連携が重要な課題となっている。中学校区ブロックの研修の中で保育から小学校へのスムーズな移行と引継ぎシート等を利用した取り組みを充実してほしい。
	(2)防災教育の推進	①危機管理マニュアルの内容を教職員で共有し、年間5回以上の訓練等を通して検証・改善を行っている。 ②「自ら命を守ることでできる行動がとれる」肯定的評価93%以上。	①大湊防災連合会・消防分団等と連携した地域ぐるみ防災避難訓練等、年間7回の異なる場面を設定した地震・津波避難訓練を実施。 ②防災に関する肯定的評価は児童99.4%、保護者93.3%。児童が「自ら命を守ることでできる行動がとれる」(98.5%)。	A	◇地域・保護者・関係機関と連携した防災学習、地震・津波避難訓練を充実させる。 ◇場に応じた安全確保・避難行動が取れるよう、多様な場面を想定した防災避難訓練を実施し、命を守る安全教育の充実を図る。 ◇大湊小PTA自主防災組織と連携し、児童参画の大湊小南タワーの管理・運営の充実を図る。	○大湊防災連合会・消防分団と連携し、地域ぐるみで防災訓練を年間7回実施したことは、高く評価できる。児童・保護者の防災に関する肯定的評価も高く、今後も充実した取り組みを継続してもらいたい。
	(3)地域との連携	①学校運営協議会を年3回開催し、協議・懇談、情報共有を図っている。 ②「地域連携」(学校評価アンケート)の肯定的評価90%以上。 ③学校だより・HP等による学校の取組の情報発信、月一回以上。	①学校運営協議会を年3回開催し、学校運営への承認と共に、地域・保護者・学校の協働的な体制を築いている。 ②「地域連携」(学校評価・保護者) 肯定的評価93.3%。 ③学校だより・HP等による学校の取組を月一回以上情報発信を行い、情報共有を図った。	A	◇学校運営協議会・地域学校協働本部と連携を深め、地域に根差した開かれた学校づくりを行う。 ◇大湊の「人・もの・こと」の良さを感じさせ、地域学習やキャリア教育を充実させ、大湊の未来の主体者となる児童の育成を図る。 ◇月一回以上の学校だよりやホームページ、定期的な学級だより等により、児童の様子や学校の取組を継続して情報発信する。	○学校運営協議会を年3回実施することができ、地域・学校・保護者の学校教育活動の向上のための協議ができた。今後も、学校教育の内容を学校・学級だより等で学校行事や児童の活動の様子などを紹介してもらいたい。また、学校から要請があれば地域の人材を活用し、教育活動に生かしていきたい。
基盤制となる	(1)働き方改革の推進	①時間外在校時間月平均45時間以内を遵守できた教職員85%以上。 ②時間外在校時間月80時間以内の教職員100%。 ③長期休業中の休暇取得10日以上 以上の教職員85%以上。	①時間外在校時間月平均45時間以内を遵守できた教職員90%。 ②時間外在校時間月80時間以内の教職員90%。 ③長期休業中の休暇取得10日以上 以上の教職員90%。	B	ゆるやかな学期スタート・「あゆみ」二期制や運動会の体育館開催等の業務改善により、教職員の業務への負担感が軽減されたが、若手教員の学級支援により、教頭への比重が高くなってしまった。全体バランスを取り、改善を図る必要がある。	○時間外在校時間月平均80時間以内が90%であり、評価できる。学校行事などの準備や児童への指導のための計画づくりなど、見直しを図り、負担の軽減を図っていることがわかる。今後も全教職員の軽減が図られるよう取り組みを継続してほしい。
	(2)教職員のメンタルヘルス対策	①専門性の高い教科等の教科担任制により、担任の負担感が軽減する。 ②SC等の活用により、教職員との面談を通してメンタルサポートを行う。	①理科・体育・音楽・家庭科等、得意分野の教科担任制により、担任の負担軽減が図られた。 ②必要に応じてSCによる教職員面談を行うことで、メンタルサポートを行うことができた。	B	管理職が共に学級経営に参画し教科支援・生徒指導支援を心掛けてきたが、若手教員のメンタルが不安定となり病休取得することとなった。教職員の困り感に寄り添い、傾聴を心掛け、サポート体制を充実させる必要がある。	○教職員のメンタルヘルスに取り組むために、教職員の得意分野の教科担任制を導入し、学級担任の負担軽減が図られた。また、管理職が中心になって教職員のメンタルヘルスに取り組み、困りごとなどを傾聴し、改善に向け取り組んできたことは重要なことである。
不祥事風土づくり	(1)不祥事を生じさせない風通しの良い組織風土の構築	①毎月第1回職員会にて「教職員コンプライアンスチェックシート」等を活用した「不祥事防止研修」を実施し、一人一人のコンプライアンス意識を醸成し、不祥事を未然防止している。 ②OJTCを中心とした定期的なメンター会等により、教職員が助け合い、不祥事を生じさせない風通しの良い職場の風土づくりを推進している。 ③「教職員が助け合い、悩みを相談でき、不祥事を生じさせない風通しのよい職場」肯定的評価90%以上。	①毎月職員会にて「不祥事防止研修」(輪番制)を実施し、一人一人のコンプライアンス意識を醸成し、不祥事の未然防止が図られた。 ②OJTCによる計画的な服務規律研修等を通じて、教職員一人一人の意識向上が図られた。 ③「教職員が助け合い、悩みを相談でき、不祥事を生じさせない風通しのよい職場」風土づくりを行い、肯定的評価100%。	A	◇さらなる「不祥事を生じさせない風通しの良い組織風土の構築」に向けて、毎月職員会にて「不祥事防止研修」(輪番制)を実施し、一人一人のコンプライアンス意識を高める。 ◇計画的な服務規律研修等を通じて、教職員一人一人の意識向上を図る。 ◇不祥事に関する通知を自分毎と受け止め、ヒヤリハットの意識を高める。	○毎月の不祥事防止研修(輪番制)の実践で、教職員一人一人のコンプライアンス意識を高めていることはとても大切だと思う。今後も教職員の服務規律の確認や意識の向上が図られるよう取り組んでもらいたい。また、教職員の中で悩みや課題があれば、全員で相談できるような職場の雰囲気を作ってほしい。

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を達成できなかった)

学校関係者評価を踏まえての改善点 1学力向上:ICTを有効活用した複式授業研究を深め、生徒指導の四視点を生かした授業改善を図ることを通して、児童一人一人の学びに向かう意欲を高め、学力向上を推進する。中学校区で連携した英語の授業研究を深め、英語の学習意欲を高める。 2生徒指導:教職員が児童の悩みに傾聴し、認められ感覚を充足する。Cog-Trや児童主体の仲間づくり等の取組を充実させ、自己有用感を高める。道徳的価値が見られる行動を評価し、規範意識の向上を図る。日頃から児童の些細な変化を見落とさないよう、定期・臨時のいじめ防止対策委員会・教職員研修を充実させ、教職員の意識とスキルの向上を図る。 3組織体制:定例の不祥事防止研修を充実させ、教職員一人一人のコンプライアンス意識を高め、服務規律の徹底を図る。教職員が互いに悩みを相談でき、不祥事を起こさせない風通しの良い職場づくりを行う。
